

# 日本伝統芸能の極致NYに

## ジャパン・パフォーミング・アーツ・インク

ニューヨークで日本の伝統芸能を主軸に日本文化紹介活動を行う非営利団体、ジャパン・パフォーミング・アーツ・インク(濱田裕子代表)は28日(土)午後6時30分から9時まで、シンフォニー・スペース(ブロードウェイ2537番地/西95丁目角)で日本の伝統芸能紹介と教育、エンターテインメントを兼ね合わせた「2017 AGES OF ENCHANTMENT: JPA Cultural Repertoires 2017」を開催する。舞台は、着物ショー、舞踊、郷土芸能の3部構成で披露する。特に大阪から本公演のために来米する文楽は海外では滅多に見ることのできない寿玉の舞台となり見逃せない。



代表・濱田さん

今公演は、今年で二度目の披露になる島根県の石見神楽、初めて披露する秋田県の西馬音内盆踊り、郷土芸能とは違う枠だが大阪を拠点とするユネスコ無形文化財の「文楽・人形浄瑠璃」を紹介する。濱田さんは西馬音内盆踊りから始まり、秋田出身の有明望がリードして披露。石見神楽では、島根県浜田市出身の酒井正嗣が演目「大蛇(おろち)」のスサノオを演じ、同郷の竹内由紀子が奏楽の一人として演奏する。横笛担当のユキ・デリアオと小杉巳紀子は初歩から学び横笛を一年で習得した。他、アメリカ人のラリー・スマラ、パトリック・コールが神楽の太鼓と小太鼓を担当。石州和紙と竹の枠組みでできた十七メイトルの大蛇を扱うのは、細井駿、宮獎、そして初の女性メンバー、門西葵。姫の役は加倉井久里朱が演じる。今舞台を締めくくるのは目玉となる文楽。大阪からこの公演の為に来米する人形遣いの面々、吉田勘市、桐竹紋臣、吉田玉彦が人形遣いの奥義を披露。海外では滅多に経験する事ができない知識を得るチャンスとなる。

### 着物ショー、日本舞踊、 伝統芸能の3部作

教育とエンターテインメントの融合  
シンフォニー・スペースで28日開催

今舞台のきつかけは、5年前に始めたコミュニティ対象の無料ワークショップやクラス。着物の着付け、素材や作り方、着方のルール、同団体が長年行ってきた日本舞踊のクラスやハルサル活動の延長として舞台化した。2年前に第1回目「JPA Cultural Repertoires 2015」公演を行い、好評だったので再公演を決意。

第一部の着物ショーでは、今回は有松鳴海絞りと友禅の着物、結婚式の打掛を紹介する。代表の濱田さんが日本各地の着物工芸を見てリサーチした知識をもとに、その職人技、分業についての背景、日本人がもつ職人気質を紹介するのが目。小林香代を含む8人のモデルが登場する。打掛の着付けは菊池恵美が担当。踊りながら浴衣を着るという斬新な演出を取り入れており、場を盛り上げる一幕も。振り付けは和田彩弥加が担当。ダンスは、能塚由香、吉本彩花、池田彩、谷口綾香。

第二部の日本舞踊では、西洋舞踊と日本舞踊を比較して日本人のもつ精神的価値観を紹介する。身体の使い方の違いにはそれぞれの国の考え方や価値観、生き方の姿勢が反映されていると解説する。一年かけて古典演目を学んだ細井駿、身体を使い方の比較を見せるためにバレエを踊る谷口綾香、モダンバレエを踊る加倉井久里朱が出演。その他、只野誠子、河津典子、穴見みどり、尾崎仁美、松本明子、日本髪と白塗り、御引き揃りで踊る本格的な日舞を披露。さらに、細井駿・伊藤武明、芝亮、宮獎、西岡翼の紋付袴で踊る演目は圧巻だ。

第三部の郷土芸能では、日本各地から三方所を選び、その歴史と詳細を紹介する。同団体が四年間リサーチした結果、現在日本の少子化や地方の過疎化の影響により、これまで数百年単位で継承されてきた郷土芸能の継承者減少に直面している事がわかった。このことから第三部は、伝統芸能の消滅を回避するための紹介をする。

### 観劇情報

入場料は大人(当日40ドル、前売り30ドル)、高校生・大学生(当日25ドル、前売り18ドル)、学生はIDを提示し窓口のみで販売を提示し窓口のみで販売。子供・65歳以上(当日25ドル、前売り18ドル)、15人以上のグループ(25ドル)チケット購入は劇場窓口またはオンライン(www.symphonyspace.org) 電話(212.864.5400)まで。今回の公演はニューヨーク州の高校を対象に無料のチケットを配布しており、高校の担当者から連絡があれば、団体無料チケットを提供する。人数に限りがあるため、早めの問い合わせが勧め。高校団体無料チケット問い合わせは、(Eメール) info@japanperformingarts.org



2年前に行ったJPA Cultural Repertoires 2015 : photo by Yoko Essel



文楽の吉田勘市氏と人形 : ©H. Kawahara

今舞台のきつかけは、5年前に始めたコミュニティ対象の無料ワークショップやクラス。着物の着付け、素材や作り方、着方のルール、同団体が長年行ってきた日本舞踊のクラスやハルサル活動の延長として舞台化した。2年前に第1回目「JPA Cultural Repertoires 2015」公演を行い、好評だったので再公演を決意。

第一部の着物ショーでは、今回は有松鳴海絞りと友禅の着物、結婚式の打掛を紹介する。代表の濱田さんが日本各地の着物工芸を見てリサーチした知識をもとに、その職人技、分業についての背景、日本人がもつ職人気質を紹介するのが目。小林香代を含む8人のモデルが登場する。打掛の着付けは菊池恵美が担当。踊りながら浴衣を着るという斬新な演出を取り入れており、場を盛り上げる一幕も。振り付けは和田彩弥加が担当。ダンスは、能塚由香、吉本彩花、池田彩、谷口綾香。

第二部の日本舞踊では、西洋舞踊と日本舞踊を比較して日本人のもつ精神的価値観を紹介する。身体の使い方の違いにはそれぞれの国の考え方や価値観、生き方の姿勢が反映されていると解説する。一年かけて古典演目を学んだ細井駿、身体を使い方の比較を見せるためにバレエを踊る谷口綾香、モダンバレエを踊る加倉井久里朱が出演。その他、只野誠子、河津典子、穴見みどり、尾崎仁美、松本明子、日本髪と白塗り、御引き揃りで踊る本格的な日舞を披露。さらに、細井駿・伊藤武明、芝亮、宮獎、西岡翼の紋付袴で踊る演目は圧巻だ。

第三部の郷土芸能では、日本各地から三方所を選び、その歴史と詳細を紹介する。同団体が四年間リサーチした結果、現在日本の少子化や地方の過疎化の影響により、これまで数百年単位で継承されてきた郷土芸能の継承者減少に直面している事がわかった。このことから第三部は、伝統芸能の消滅を回避するための紹介をする。

ジャパン・パフォーミング・アーツ・インク主催

# AGES OF ENCHANTMENT: JPA Cultural Repertoires 2017

Japan Performing Arts, Inc.

**10月28日(土)**  
午後6時30分～午後9時  
Symphony Space  
(2537 Broadway at 95th Street, NYC)

入場料: 大人(当日40ドル、前売り30ドル)  
高校生・大学生(当日25ドル、前売り18ドル) \* 学生の方はIDを提示し窓口のみでご購入ください  
子供・65歳以上(当日25ドル、前売り18ドル)、15人以上のグループ(25ドル)

チケット: 劇場窓口またはオンラインでご購入ください。  
www.symphonyspace.org, Tel 212.864.5400

協賛: MUFG J.C.C.FUND U.S.-Japan Friendship JCCI NY Japanese Chamber of Commerce and Industry of New York, Inc.